

寸心先生日記抄

(三)

○明治三十六年

一月一日 廿六日晚より洗心庵にあり。三竹桑原昨夜

去る。午前九時に起きた。いつも洗心庵にとまつた
除夜にはねれぬが、昨夜は少しねれた

一日打坐した。坐しても中々本氣になれぬ。洋行
がしたかつたり大學教授になりたかつたりいろ／＼
の事を思ひ、又どうも身體が苦になりて純一になれ
ぬ

人間は死んで居るものと思はなければ大事がなせぬ
と河井もゴルドンも云はれた。自分は三十五年十二
月卅一日に死んだものと思ふて見ても、どうも本氣
にそうは思へない
併し古人も萬事を放下せよと曰はれたが、どうして
も死んだものと思ひ萬事を放下せねば純一になれぬ

石川君を待つ、來らず

一月二日 午前四時頃火事あり。朝歸宅、年賀狀をか

一月三日 午前湯に入る。憑次郎來る

午後北條先生を本多町の宅に訪ふ。それより洗心庵
に歸る

一月四日 午前午後打坐。夜そば、うどんを食ふて十
二時まで打坐

一月五日 「略、歸宅」

一月六日 午前清水(徳)來る。午後一寸學校にゆく。

夜得能健吉來る

姉來り昨夜の話なす

雪門和尚へ知本報恩論五十部送る

一月七日 午前入湯。午後等力利方來る

今日は心理講義の準備をなす

一月八日 此日より學校始る。出校

午後子規追悼録をよむ

一月九日 出校。今日は久しぶりにてテニスをなす。

逢坂來る。木村博士の送別會あり、余出席せず

フリードレンデルよりダンテ獨譯到着。入湯

一月十日 水湯。出校

午後田部君を訪ひフアウス(ト)英譯をかる

寒河内来る、金を渡す。明日歸郷すと云ふ

夜三々塾に於て茶話會あり。吉村校長、林、田部、

森内、石川諸君來會

小川信次宿主森村某來る

一月十一日 午前ダンテをよむ。午後中俣氏を訪ひ、

眞美大觀を見る

桑原三々塾に入る

山村久右エ門來り慕の件を托す

一月十二日 出校。ダンテを浦井君へ渡す

一月十三日 出校。歸途木村氏を訪ふ

夜よく眠る能はず

一月十四日 出校。今日珍らしき好天氣にて午後テニ

スを遊ぶ

ダンテ一冊かる

憑次郎東京へ出立す

一月十五日 出校。今日も天氣よきによりテニス

午後姉方にゆく。三竹君來會快談

森田桂來る

山本より「博愛社」を送り來る。林歌子のことをよみて坐る涙を催うす

一月十六日 出校。午後ダンテ會あり。夜手紙を書す

一月十七日 出校。午後級會に出席

一月十八日 朝より姉方にゆき讀書

午後五時より公園にて山口會あり、五井氏の洋行を

送る。夜眠る能はず

山村此日馬場に去ると云ふ

一月十九日 午後出校。此日頭の工合あし

一月二十日 出校。午後より姉方にゆき讀書。姉方に

宿す。夜よく眠る能はず

一月二十一日、二十二日 [略]

一月二十三日 出校。午後ダンテ會あり。晴天にてテ

ニス

一月二十四日 出校。午後桑原來る

夜時習寮茶話會にゆきイバンの話をなす

一月二十五日—二十九日 [略、二十六日にも「昨夜眠る

能はず、頭の工合あし」とあり。また屢々姉方に宿す]

一月三十日 午前水芹君來る。午後森内、宇野兩君來

る。夜手紙を出す

フアウスト第二篇 *Friester Act* 五みる

一月三十一日 出校。午後より洗心庵にゆく。十時頃
 帰宅

二月一日 入湯。午後木會、川村來る。木會道友會に
 て佛敎の話をしてくれと云ふ

三時頃より一日會にゆく、學生餅をつく。教師にて
 中野、富田來會

夜姉にゆき宿す

二月二日 午前十一時帰宅。出校。今日は珍しき晴天
 なるによりテニスをなすこと二時間餘。體いたし。

夜眠る能はず。ホト、ギスをよむ

二月三日 出校。夜桑原來る。ダンテをよむ

二月四日 〔略〕

二月五日 出校。夜三矢來る

金十四紛失せりとて騒ぐ。外持ち來る

二月六日 出校。午後ダンテ會あり。それより職員談
 話會にゆく、八時頃帰宅

帰宅後明日の講話を考ふ

二月七日 出校。午後一時半頃より第二中學校にゆく

講話を爲す。ダンロツプも來れり

歸途ユンケルを訪ふ。夜桑原來る

海老名の基督傳をよむ

二月八日、九日 〔略〕

二月十日 出校。午後三時より金谷館にて加能同志會
 あり。夜三々塾にて傳習録の會あり。十二時帰宅

始めて倉永と云ふ人に逢ふ、メソヂストの牧師なり

二月十一日 午前九時にて拜賀式あり。終りて時習寮

生の箴規朗讀式あり〔以下略〕

二月十二日 〔略〕

二月十三日 出校。午後ダンテ會あり

今日よりザントをよみ始む

二月十四日 出校。午後二時より獨文講話會にてハイ

ネの詩を講す

夜打坐、妄想蜂起。余は實に眞摯にあらず

二月十五日 午前渡邊君來訪。午後柔道大會あり。

夜三竹君と北條先生を訪ひ、久しぶりにて快談

先生トルストイのモーパスサンを送らる

先生曰く、余はかくしてもう死するのみ、已に死し
 居れば。

三竹君曰く、余は随分苦しき所を忍びたり

二月十六日 出校。晴天にて四時頃までテニスをなす

二月十七日 〔略〕

二月十八日 出校。岡野義三郎氏來校

Tolstoy の *Guy de Maupassant* をよみたる面白

し

二月十九日 小松宮殿下御逝去につき學校休み

二月二十日 出校。午後ダンテ會をやむ。Rene の譯

をよむ。夜秋月、白石來る

二月二十一日、二十二日 [略]

二月二十三日 午後出校。秋月より Henry Drum-

mond の傳を送り來る。我と才藝とは別物なりと云

ふ語あり

Oldenberg の Buddha をよみ始む

二月二十四日 出校。三年の倫理のみなり

二年生は本日雪中行軍をなす

二月二十五日 [略]

二月二十六日 出校。小松宮殿下國葬につき學校を休

む、式あり。午後三竹君來る

今日怠る

二月二十七日 出校。ダンテ會あり、終りてテニスを

なす

けふは少しく風邪の氣味なり

二月二十八日 出校。風ひきて氣分あし

清水、河合來る。清水は寄留舎にて自治をなすと云

三月一日—三日 [略]

三月四日 出校。今日大に心地快し、快復せりと見ゆ

テニスをなす

北條令室來訪

三月五日 出校。雨ふる。奥田より名婦鑑を送り來り

讀む、〔下略〕

三月六日—十二日 [略]

三月十三日 ○願注意、出校。午後ダンテ會あり、ハ

ムレットをよむことと定む

三月十四日 午前出校。午後洗心庵にゆき宿す

三月十五日 午後森内君を訪ふ、夕頭歸宅

Haupmann の *Versunkene Glocke* をよみ始む

三月十六日 工夫あしく頭工合あし。午後出校。會議

あり

三月十七日 [略]

三月十八日 出校。午後三時獨語教科書の會議あり、

七時頃歸宅

老師(虎關)遷化の報來る(十六日午前一時)

三月十九日、二十日 [略]

三月二十一日 出校。謙又幼稚園に入るを得ず

今日頭の工合あしく物を考へても分らず

根保來る

三月二十二日 好天氣。午後三宅氏を訪ふ

三月二十三日—四月一日 [略]

四月二日 北條先生を停車場に見送る

十一時の汽車にて河北にゆく。山村方に宿す

長樂寺側の墓を共同墓地に移す。祖先以來長樂寺の側にありしが墓地傾き危険の患ありしが爲なり

四月三日 林方に立寄り午後四時二十分汽車にて歸宅

四月四日 午前北條先生を訪ふ。三竹君あり、渡邊君

も來會

正午學校長の招にて學校にゆく、留學の話あり

午後より洗心庵にゆく

四月五日 此日北條氏家内廣島へ出立

三竹君に逢ひ留學の件を相談す。夜吉村校長を訪ふて留學の決心を話す

徳二來る

四月六日 天氣好晴。午後石川君を訪ひ、洗心庵に行

く

四月七日 此日天氣よし。長土堀四番丁三番地へ轉宅

夜眞島隆輔來る

四月八日 [略]

四月九日 出校。今月より勉學を始む

按摩來る、昔長土堀の家に来れる者なり

四月十日 出校。天氣よしテニス

午後敎官會議あり、校長十三日出京すと云ふ

夜黒潮をよむ

四月十一日 出校。午後又黒潮をよむ

秋月來る、爲換書(替書)を渡す

四月十二日 午後河北潟にてボート上に於て獨語二年

の綬會を催ふす。天氣よく心地よし

四月十三日 此日氣分あし。講義を考ふれども思ふ様

にゆかず

四月十四日 出校。秋月より金三十七圓預る。夜古道

等來り釋尊降誕會を催す相談あり

眼あしく且下痢を催ふす

四月十五日 午前七時出發、羽咋に向つて行軍。津幡

まで歩み、敷波まで乗車なしそれより演習、夕に羽

咋着。雨ふり頗る困難。余は森内、永井と第二中隊

本部に宿す

四月十六日 午前七時出發、敷波まで歩行、津幡まで

乗車、津幡より演習、四時歸校。雨ふらざれども滿

天積雲

堀、秋月より手紙來る

松田宗吉君此日午後一時頃病歿。途に阿兄渡邊君が病院より歸らるゝに逢ふて慘然

四月十七—十八日 〔略〕

四月十九日 今日テニスの大會あり。余と森内と同組

にて田部上原とマツチをなし負たり

夜洗心庵にゆき坐す

四月二十日—二十三日 〔略〕

四月二十四日 出校。ダンテ會あり、西鶴終る。テニ

ス

白石來る、一圓二十錢渡す

四月二十五日 出校。午後安東來る。

ヘーゲルをよむ。朝顔鶴頭など植ゆ

四月二十六日 〔略〕

四月二十七日 出校。午後田部君を訪ひ The Nation's

Picture を見る

四月二十八日 出校。午後吉崎君來る。フリードレン

デルへ三十一麻九十五弗送金

四月二十九日、三十日 〔略〕

五月一日 出校。ダンテ讀め了る。古事記始る

夜百會にゆく、會する常より少し

五月二日 〔略〕

五月三日 午前石川君來る。明日武徳殿にゆくと云ふ

午後釋尊降誕會にゆく。村上專精師の講話あり

五月四日 出校。森内とデ・ハビランドを訪ひ又ウオ

ールファートを訪ふ

胃を害す。田部君の母堂死去

五月五日、六日 〔略〕

五月七日 出校。午後太陽をよむ。小川來りつゞいて

徳田來る

キルヒネルをよむ

五月八日、九日 〔略〕

五月十日 午後湯月、村木、八波來る

井上氏釋迦牟尼傳を讀み了る

五月十一日 天氣好し。午後出校。夜中俣氏を訪ひ種

々の畫を見る、面白し

畫家一幅の爲に盡す精勵を見ても、一事を成す容易

にあらず

五月十二日 出校。此日より人心の疑惑と云ふ文をか

き始む

五月十三日 出校。夜草文

五月十五日 出校。此日よりバムレット讀み始む。

五月十六日 出校。午後睡眠。夜文を草し了る。

五月十七日 此日下金石に於てポート會あり。午前八

時よりゆき午後八時歸宅

ブランドスのロマンチック、スクールをよむ

天氣快晴

五月十八日 ファウスト第二巻をよむ。莊内の學生來

る

五月十九日 出校。午後入湯。氣分面白からず

夜多田來る。余も彼と同じき疑惑の中にある者なり

五月二十日 出校。午後獨法三年生寫眞をとる

夜中僕來る

人は冷酷なり。人に由るはつまらぬものなり。人を

己を利用し愚弄するなり

五月二十一日 出校。宗教心の考を誓す

五月二十二日 出校。今日よりファウスト第二巻をよ

み始む

五月二十三日 出校。午後繪畫展覽會にゆく。宇野君

に逢ふ。歸途三竹君を訪ふ

五月二十四日 午後三々塾にゆき來學年の入るべき人

を評議す。午前は欠部來る。何事もなさず

五月二十五日 出校。此日一日働きたり

五月二十六日、二十七日 [略]

五月二十八日 出校。入湯。佛敎統一論をよむ

五月二十九日 出校。フライドレル氏基督教歴史をよ

む

五月三十日—六月四日 [略]

六月五日 出校。天氣よし、大にテニスをなす

午後橋の件につき懲罰會議あり

六月六日 出校。午後會讀を催ふす。四時より金谷館

に於て職員談話會あり、八時頃歸宅

湘州女史の病床日記をよむ、一二感すべき所あり

六月七日 入湯。終日在宅。憲次郎來る。

フライドレル氏基督教論をよみ終る

大津來る。堀尾といふ者を置いてくれんかと頼む

六月八日 出校。午後散步をなす。徳田來る、ゴル

ドン傳をよみて大に感じたりといふ

六月九日 出校。今日は物うければ早く休む

六月十日 出校。今日は少しく勉強せり。暮に大津堀

尾を伴ふて來る、あまりよく話さず。九月よりをい

てやる事にさだむ

六月十一日 出校。雨ふる。入湯。起信論一卷讀了

余は時に佛教の歴史的研究をもなさんと欲す。余はあまりに多願、あまりに功名心に強し。一大真理を悟得して之を今日の學理にて人に説けば可なり。此の外の餘計の望を起すべからず。多く望む者は一事をなし得ず

六月十二日 出校。夜起信論をよむ

六月十三日、十四日 [略]

六月十五日 午前草文。午後學校にゆき試験問題を作り終りテニス

宮森來る、東京の話をきゝ自ら業の成らざるを悲しむ

夜眠る能はず

六月十六日 午前讀書。午後より學校にゆき試験問題をすり、それよりテニスをなす

歸宅後非常に發熱す

六月十七日 今日學校をやすむ。股にインゴできたるなり

六月十八日—二十一日 [略]

六月二十二日 朝より足痛みイスゴいたむ。

試験なれば車にて出校す。二部三年の試験を終れば足いたみ熱いでゝ歩行に堪えず

金子生をして家に此事を知らしめ又車にて歸宅 歸宅後臥葺、暮に森島氏來る

六月二十三日—二十五日 [略]

六月二十六日 桑原出立。午後多田來る

今日新小説をよむ。シーンキウイツの燈臺守といふ一編面白し。徒然なる儘にくだらぬ小説までも隈なくよむ

山本君醫術編を送り來る。寶山・大拙二兄より端書來る

六月二十七日、二十八日 [略]

六月二十九日 午前龜川、宮北來る。午後飯森にゆき

それより學校にゆく。三年生及落會議あり

Heute bin ich zu stolz gewesen.

六月三十日—七月二日 [略]

七月三日 晴。午後始めて飯森方まで歩行す。歸途田

部君を訪ひ夕頃まで談話、ステベンソンをかる

七月四日 終日在宅。Stevenson の Will of the Nile

を読み終る、面白し。ウイルは余が理想の人なり

山田、三股、藤澤來る。

七月五日、六日 [略]

七月七日 午前八時より教官會議あり。今日にて學校

の仕事悉皆終了

藤岡より繪畫史送り来る。歸途飯森に行く

七月八日 午後學校にゆき書をかり、髪をきる

シユライエルマーヘルをよむ

七月九日 シユライエルマーヘルの宗教論を讀了る。

プライドレルの批評も併せよむ

午後マケンジーを訪ふ。森内、藤井を訪ふ、不在。

七月十日—十三日

〔終〕

七月十四日 午前學校にゆき旅行届を出し、書をかり、

俵給受取を吉村政行氏に依頼す

七月十五日 午前九時二十分の汽車に□し午後八時頃

京都にゆく。要法寺山内法性院得田方に宿す

七月十六日 午前泰西名畫集など見る。午後五時頃よ

り山本君を一音院に訪ひ同君方に宿す

七月十七日 午前八時頃歸る。午後六時頃より稻葉君

を常光院に訪ふ。清澤氏の話などなす。稻葉君方に

宿す

七月十八日 午前七時頃得田方に歸る。夜得田夫婦と

耘の事につきて話す。

〔略〕

〔終に「せきけん、布、手拭、箱、はがき二枚」と書す〕

七月十九日 午前八時頃得田を出て大徳寺山内孤蓬庵

に来る。一溪和尚に逢ひ暫く置いてもらふことに定む

午前十一時頃廣州老師を訪ふ。老師は實に淡泊なる

天眞の人なり

今度は一つシツカリやるつもりなり

七月二十日 今日一日打坐。食後睡眠。晩に獨參

どうも余は勇猛心に乏し

七月二十一日 今日は大に奮發打發せざるべからず

午後は大分勉強せり

晩には獨禪休み

〔發信欄に「家へ葉書を出して藥を求む」とあり〕

七月二十二日 大に雨ふる。今日晝の中大分勉強せり

石川より聞きし山岡の修行大に心を勵ましたり

七月二十三日 午前一溪和尚と講座をきかんとして行

きしも休なきき

禪宗といふ雜誌をかりてよむ中に近重博士の談あり

大に慚愧す

余は禪を學の爲になすは誤なり。余が心の爲め生命

の爲になすべし

見性までは宗教や哲學の事を考へず

汝遠く家を離れ京都に來り而も怠慢一事をなさずし

て歸らんとするや、かくの如くして幾年を經過するも何の功あらん「この一文毛筆にて書す」

余は又公案を變へられたり、フー／＼／＼／

七月二十四日 藥送り來る。得田よりも藥ありといふ

端書來る。得田には粟田神社へ轉ずといふ

午後中立賣まで散歩す。晩に堀尾氏來宿

〔欄外に〕 倒れても弓矢放さぬ桑山子哉 (鐵舟)

七月二十五日 午前獨參。午後北野神社まで散歩、雨

に逢ふ。馬二匹買ひ歸る、十一錢。

昨日今日はなまけたり。公案をかへられ氣拔けたる

なり

夜は獨參なし

七月二十六日 今日も休講なり。又獨參もなし。終日

饑應とかにて僧供、旨い物食ふて遊ぶなり

朝は大分勉強す。夜は一溪和尚と雜談せり

今日の僧侶はつまらぬものなり。修行何の功ある

七月二十七日 吁、心魔／＼。キリストが野に於ける

苦心思ひやらる

今日は大分妄想と戦ひたり

晩に獨參又休なり

七月二十八日 千萬清波、激岩峻天、只盡死力、苦味

誰知、怒濤朝天中、確然我不動
今日は講座ありたり

余は何處までも *annu* と戦はんとす

危機一髪、心機一轉

午後より藥をとりて得田にゆき宿す、堀尾來り話す

夜泰西名畫集を見る、面白し

〔欄外に〕 冬成不嚴、春化不振 (白隱)

七月二十九日 午前九時頃孤蓬庵に歸る。午後又山本

君を逢ひ^{〔訪〕}松の事を談す

談話遅くなり山本方に宿す

七月三十日 午前十時孤蓬庵に歸る。晩に獨參す

北條より電報來る

七月三十一日 午前散髮。午後沐浴

四時頃より七條にゆき、森外三郎君あり。六時北條

氏來る。金子、土岐にも逢ふ。森、金子と北條先生

の宿四條繩手通小川にゆく、談話。余は北條先生方

に宿す

八月一日 午前八時頃北條先生と小川にて分れ歸る。

歸途に岡本方を訪ふ。公憤の事を話す

午後三時頃孤蓬庵に歸る。晩に獨參休

八月二日 艱難玉汝、逆境是鍊心之好時節

敵は備中にあらず本能寺にあり

八月三日 午前七時講座をきく。晩に獨參無事を許さる。されども余甚悦ばず
杉森留學す。人は自ら勉ざるの外なし、他人は恃むに足らず

公案 鐘の音を止めよ

八月四日 此日ぶら／＼してくらせり。晩に石川君來る。石川は前田侯爵に尾して金澤に歸るといふ

八月五日 小包送り來る。馬鹿なる事をする奴なり
主心を失する勿れ、萬里一條鐵

晩に參禪、前の公案をとらる

八月六日 午前講坐あり、それより得田方に歸る。夜
稻葉君を訪ふ

八月七日 午前得田と孤蓬庵にゆく、三竹君あり

晩に三竹君と共に孤蓬庵を辭し、晩に得田に歸る

八月八日 午前京都博物館を見る。午後動物園を見る

夜十二時出立

八月九日 午前十時頃歸宅

八月十日、十一日 [略]

[中絶]

日記抄

九月二十一日 出校。午後教官會議あり。夜田部君よ

りかりたる近藤常次郎といふ人の「仰臥三年」といふ書をかりてよんだ。

〔以下なし〕

前 號 目 次

知性の法則(デッサン)……文學博士 矢田部達郎	精神疲勞の一考察……文學士 岡原太郎	固定現象に關する比較心理學的考察……文學士 八木 冕	心理學における二三の科學論的問題について……文學士 末永俊郎
-------------------------	--------------------	----------------------------	--------------------------------